

## 2. 不審者対応

### ○校外における不審者による被害

#### 1. 日頃から留意すべき事項

子どもの発達段階等による判断能力などを総合的に考慮し、登下校の安全確保について、次の点に留意し、具体的な指導を継続する。

- ・校園長は、平素から子どもに登下校における安全確保について注意を呼びかけるとともに、学級担任をととして具体的な対応策について指導する。
- ・友だちが事件に巻き込まれたときは、直ちに保護者や学校に連絡するよう指導する。
- ・無理やり連れて行かれそうになったり、不審者の被害にあったりしたときは、近くの家（こども110番の家）に逃げ込むか大声を出し、助けを求めるよう指導する。
- ・保護者には、普段から子どもの通学路や友だち関係を確認してもらう。
- ・事件が発生した場合、適切に対応できるよう校内の組織体制を整えておく。
- ・緊急時に速やかに連絡や対応ができるよう、家庭や周辺校、関係機関との連絡体制を整えておく。

#### 2. 緊急対応のポイント

##### ＜具体的事例＞

小学女児2名が下校途中、内1名が、自宅マンションのエレベーターの中で高校生風の男性に抱きつかれた。驚いた女児は自宅に逃げ帰り母親に状況を話した。母親から「どう対処すればいいのか」との相談の電話が学校に入った。

被害女児の母親 → 警察に連絡する

##### 連絡を受けた教職員

- ・警察への連絡を依頼する。
- ・被害時間や場所、不審者の特徴などをしっかり聞き取る。
- ・被害女児の様子を聞き取る。
- ・事実経過を校長に報告する。

##### 校長の対応

- ・情報を収集し、状況の把握に努める。
- ・警察等に連絡し、巡回等の強化を依頼する。
- ・被害児童宅を訪問し、心のケアなどに努めるよう担任等に指示する。

##### 教育委員会及び近隣校への連絡

- ・速やかに生徒指導課に連絡し、対応策を協議する。
- ・近隣校に連絡し、注意を促す。

##### 緊急の職員会議

- ・校長は緊急の職員会議を招集し、被害女児のプライバシーに配慮しながら事実経過を説明し、対応策を協議する。

##### 学校にいる他の児童への対応

- ・被害女児のプライバシーに十分配慮し、登下校の安全確保について指導する。
- ・集団登下校を実施する。

↓

#### PTAや自治会への協力依頼

- ・PTA会長や自治会長に事実経過を説明し、巡回等の協力を得る。

↓

#### 保護者への対応

- ・事実経過や安全確保の対策等の保護者あて文書を出す。
- ・文書の内容については、被害女児のプライバシーに十分配慮し、被害女児の保護者の了解を得る。

### 3. 事後の対応のポイント

校外における不審者による被害が発生した場合は、児童生徒等の心のケアを行うとともに、情報を整理し、調査・報告を行い、再発防止につなげる。

#### ○「こども110番の家」運動について

1. 目 的 子どもたちを犯罪等から守る「こども110番の家」運動を推進する。
2. 取組主体 堺市・堺市教育委員会・各校区自治連合会等
3. 取組方法 ①一つの単位自治会で協力者を選出する。  
(例として単位自治会・PTA・子ども会・防犯委員・青少年指導員等の関係者から選出する)  
②各校区自治連合会で、「こども110番の家」運動に取り組んでいただける協力者の名簿を作成する。  
③小旗(30cm×40cm 60cm のプラスチックの棒付き)を単位自治会数分、校区代表者あて送付する。
4. 旗の掲示 「こども110番の家」の小旗を、子どもから見やすいところに揚げ、危険を感じた子ども・女性等が旗を見て助けを求めて駆け込むことができるようにする。  
※旗は、在宅しているときのみ掲出する。
5. 警察との連携 「こども110番の家」の協力者名簿を所管警察署に連絡し、連携を図る。  
子ども・女性等が助けを求めて駆け込んできた場合、周辺の人に大声で救援を求め、ドアをすぐ閉めるなど、子どもや家庭に危機が及ばないよう、安全を確保し、直ちに警察に通報する。

(I-6「心のケア」参照)

### ○校内に侵入した不審者

#### 1. 日頃から留意すべき事項

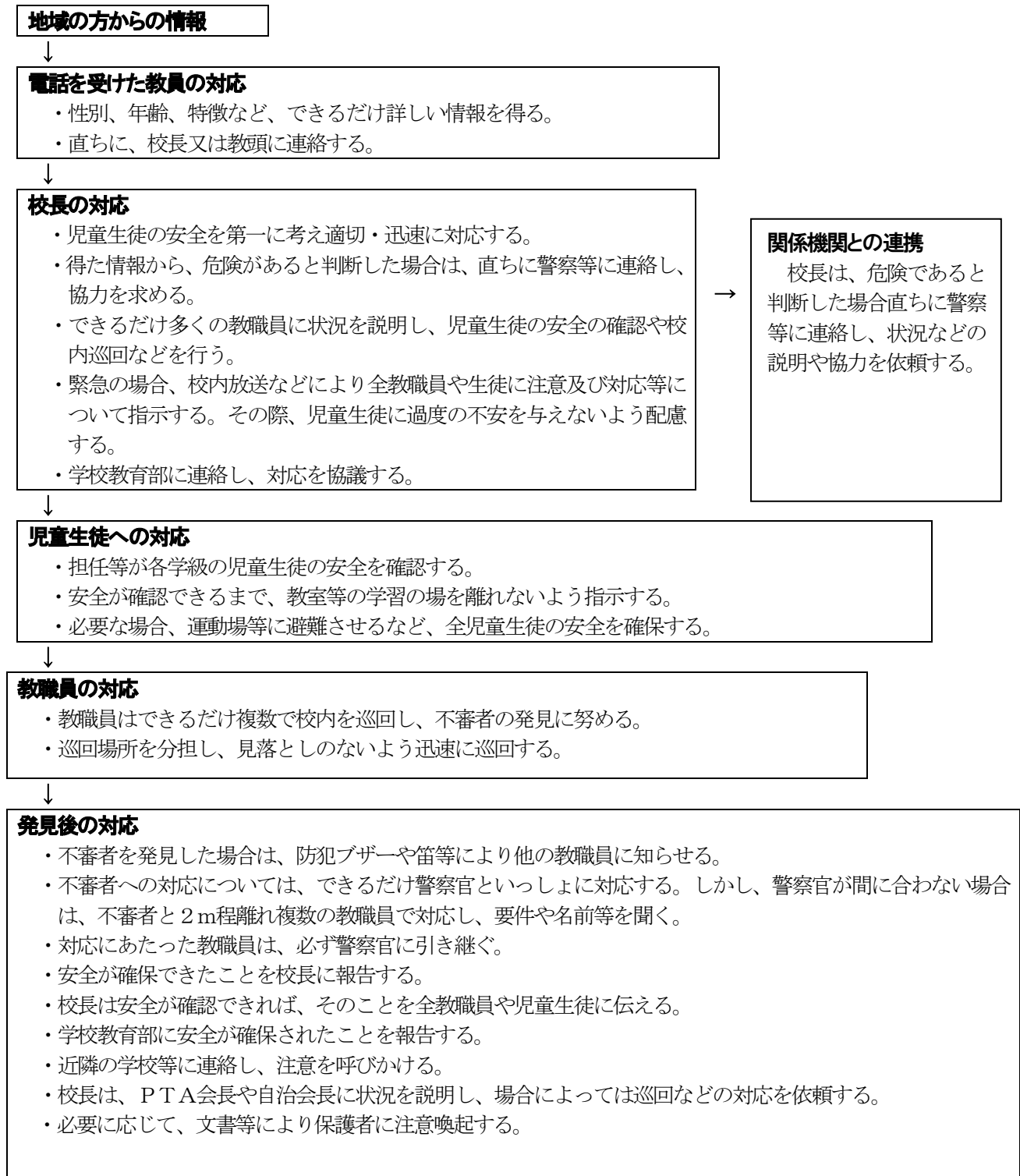
- ・来校者が、教職員及び児童生徒に分かるよう玄関に受け付け名簿を用意し、必要に応じて来校者用の名札をつけるなど工夫する。
- ・来校者に対して、通用門を明確にし、モニターテレビやインターホン等により外部からの人の出入りの確認を行う。また、出入りが確認しにくい通用門については、施錠等に配慮する。
- ・来校者に対して、声をかけて用件等をたずねる。
- ・校内で不審者と思われる人物を発見した場合には、近くにいる教職員に連絡をする等、児童生徒に、日頃から危機管理意識をもたせ、具体的な対応について指導を行う。
- ・日頃から地域や近隣の学校園、警察等と連携して情報が速やかに把握できる体制を構築しておく。
- ・緊急事態が発生した場合、直ちに校長又は教頭に情報が伝達され、児童生徒への注意喚起、避難誘導、校内巡回など、回避に向けての対応ができる教職員体制を構築しておく。

- ・ P T A、自治会、青少年健全育成団体等との連携協力の下、各家庭や地域への注意喚起、放課後における学校周辺や校区内の巡回指導、集団下校への同伴などの取組が円滑に行われるよう、体制を構築しておく。

## 2. 緊急対応のポイント

### ＜具体的事例＞

校区の方から、「不審な男が、校内に入って行くのを見た」との内容の電話を教員が受けた。校内を調べた結果、ある教室に侵入していたところを教員が発見した。



### 3. 事後の対応のポイント

不審者侵入における緊急対応が発生した場合は、事態が収拾した後、児童生徒等の心のケアを行うとともに、情報を整理し、調査・報告を行い、再発防止につなげる。

(I－6「心のケア」参照)